

第5回 加茂市都市計画マスタープラン策定委員会  
議事要旨

日時：令和6年3月27日（水）14：00～

場所：加茂市役所 3階 301委員会室

出席者：以下のとおり（敬称略）

区分	氏名	所属・団体名
第1号 学識経験者	松川 寿也	長岡技術科学大学 准教授
	鈴木 孝男	新潟食科農業大学 教授
第2号 関係団体	海津 恵美	七谷さとやまふぁーむ
	佐藤 愛子 (欠席)	えちご中越農業協同組合 経営管理委員
	川崎 大一郎	株式会社 川崎薬品商会
	川上 和哉	有限会社 川上製作所 代表取締役社長
	藤田 和子	特定非営利活動法人 わくわくクラブ 理事長
第3号 その他	片岡 廣夫	公募委員
	笹川 裕子 (欠席)	公募委員
	森田 佑介	公募委員
	市川 恭嗣	加茂市 CSO
オブザーバー	上村 康司	新潟県三条地域振興局地域整備部 部長

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 第4回策定委員会の振り返り
  - (2) 都市の将来像及び都市整備の方針について
  - (3) 第2回地域別懇談会について
- 4 事務連絡
- 5 閉会

(1) 第4回策定委員会の振り返り

～事務局資料説明～

【意見交換】

- ・意見なし

(2) 都市の将来像及び都市整備の方針について

～事務局資料説明～

【意見交換】

(委員)

- ・将来像について、財政が厳しい中で、持続可能がポイントとなる。例えば、「愛着と誇りを次代につなぎ、居心地よく笑顔あふれるまち」が良い。

(委員)

- ・「都市の活気と価値を高める」と、使い勝手がよくて楽しく、希望が持てる都市だと思うため、コンパクトで使い勝手の良いまちのようなキャッチフレーズだと分かりやすい。

(委員)

- ・都市づくりの目標について、一番最初に「コンパクトなまちづくり」を記載するよりは、3番目の自然環境を前面に上げた方が良い。

(委員)

- ・愛着と誇りについて、地域の人たちがどうして誇りを持ってほしいかというところは、どこら辺なのか。  
→(事務局) 加茂山や加茂川、鯉のぼりなど自慢できるようなことについて誇りをもってもらうこと。

(委員)

- ・誇りは自分たちでつくっていくものではないか。自然に誇りを持ってといわれても、あまりイメージが湧かない。

(委員)

- ・第1回と第2回の総合計画の住民アンケート、加茂市民全般の加茂市に対する愛着の度合いが下がっている。第3次総合計画は、特に若い世代、30代等の愛着度が非常に低く30%台となっている。そういった世代の人たちが、「加茂市って、未来があるね。将来があるね。そういう都市像だね。」と思うようなキャッチフレーズを検討してほしい。

(委員)

・目標1「持続的発展が可能なまちづくり」や目標2「愛着と誇りを育むまちづくり」について、中身が合っているのか。例えば中心市街地はエリアプラットフォームの概念もあるが、まちづくりが商店街だけがコンパクトになったからといって、持続的な発展が望めるのか。また2番の「多様な働く場の確保に向けた“工業拠点”」とあるが、工業団地がここでしか増えないという現状でどうやって希望的に考えればいいのかと思う。今の商店街の事業者は20年後にほとんどいなくなると思う。そのときに商店街がなくなっている方がイメージがつく。「愛着と誇り」は、まちの目指すべき方向性として良いと思うが、中身のイメージがつかない。

→(事務局) 具体的な内容がないことでイメージが湧かないことは理解できる。一方で人口が減少している中で、衰退はさせたくない。今ある地域やコミュニティを守りながら、発展させるための取り組みを官民、教育関係も含めて協力し合いながら進めていくしかないと考えている。

(委員)

・加茂市の地価を下げられないという話が商業にあると思うが、それは既存の会社や住んでいる方など、様々な事情で下げたくないところがあると思う。例えば、ここは特区にするなど思い切った話があれば、希望的な見方ができたりもする。

→(事務局) いただいたご意見も踏まえて、今後地域別構想で検討していきたい。

(委員)

・総合計画の「笑顔あふれるまち 加茂」を実現するため、土地利用計画上でどのように工夫をするのか。将来人口は20年後に1万4,000人程度となる。加茂が生き延びていくためにどうしていくのか。その議論をこの委員会でもっとやっていただきたい。

(委員)

・将来都市像について、コンパクト+ネットワークに関連するキャッチコピーを入れることで、それぞれの地域を切り離すのではなくて、それぞれの地域の良さを生かしながら、それを全体として一つにコンパクトにまとめていくというメッセージを冒頭で打ち出せる。

→(事務局) 将来像に政策論を入れてもなじまないと感じる。

(委員長)

・将来都市像は、今後、戦略とかいろいろなものにつなげていくためのベースとなるフレーズであるため、あまり細かいことは書けないが、目指すべき方向性として、市民の皆さんが共有してくれるような、ワンフレーズを書き込むことが必要である。

(委員)

・「世代を超えてつながる魅力と居心地の良さを創出できるまち」がよい。「愛着と誇り」というのは、つまり魅力ということではないのかなと思う。「世代を超えてつながる魅力」と

いうのも持続的な次代につながる愛着と誇りになって、なおかつスリム化することで居心地の良さをこれから創出していくということ。

(委員)

- ・地域の宝、自然、歴史・文化として、地域の特色を守り生かしていくというシーンが一つある。また、市民とともに、みんなで新しい価値を創造していくというところが、これから一つ方向性として、今回の都市マスの特徴としてある。市民とともに価値を創造すると、地域の宝を守り、生かしていくという視点が、特に山と川と緑のネットワークを生かした、山に近い、水もきれいで、自然豊かなところを強調してキャッチフレーズを使って、さらに世代を超えてという視点を織り込むと、とても加茂らしいビジョンが描ける。

(委員)

- ・「交通体系の整備方針図」の整備検討路線の二重線があるが、その二重線の国道403号バイパスの結節点辺りの市有地について、実現できるかどうかは別として、そこに対しての土地利用の方向性を検討して欲しい。

(委員長)

- ・将来都市像について、委員からの意見を踏まえて事務局側で再度検討して欲しい。

(委員)

- ・将来都市像について、抽象的だと思ったのが率直な感想。もう一步突っ込んだところのフレーズだと市民の皆さんが分かりやすい。

(委員)

- ・交通体系の整備方針図の見直し検討路線について、七谷地域からのアクセスに必要な路線があり、なくなっては困る。公共施設の今後の使用用途や解体、再利用などの方向性については、反映できないか。  
→(事務局) 都市計画マスタープランでは具体的な内容までは記載しない。別の計画で公共施設のアクションプランの策定を進めており、そこで具体的な内容を示すことになる。

(委員)

- ・土地利用方針図の農業振興ゾーンは、ここに集約するというような意味なのか。  
→(事務局) 農業振興ゾーンの全てが農地を示しているのではなく、介在する集落も含めている。

(委員長)

- ・農業振興ゾーンの全てが農地と誤解されては困るため、工夫が必要である。

(委員)

- ・地域別懇談会でも土地利用方針図を示していただきたい。農村集落ゾーンのイメージイラストについて、地理的な構造が違うため、リアリティがない。  
→(事務局)地域別懇談会では地域の課題図を提示して、議論していただく。イメージ図については、特定の場所をイメージしたわけではない。

(委員)

- ・公園の開発について、学校の敷地を活用することが考えられる。

(委員)

- ・加茂市では街区公園が一番大きい身近な公園であるが、それより大きな近隣公園や地区公園の整備が必要である。

(委員)

- ・交通体系の整備方針図について、縦軸が弱い感じになっている。県道長岡栃尾巻線から国道290号までを主要幹線道路にできないか。ネットワークとして重要な路線である。  
→(事務局)幹線道路であっても、決しておろそかにしているという考えは全くない。幹線道路に位置付けている路線は、今後とも利用する重要な道路である。

(委員)

- ・93ページの商店街と河川軸のイメージについて、現状と変わっていないイメージである。加茂山とまちなかと加茂川を一体的に表現することで、イメージができるのではないか。  
→(事務局)イラストについては途中段階のものであり、今後検討する。

### (3) 第2回地域別懇談会について

～事務局資料説明～

#### 【意見交換】

(委員)

- ・地域の課題図について、あまり課題に寄ってしまうとよくない。地域の魅力や歴史・文化などが非常に重要なので、そういった良い面の資料なども添えることが必要である。  
→(事務局)ご意見を参考に検討する。

(委員)

- ・地域の将来像と全体構想の将来像はどのような関係性であるか。  
→(事務局)地域の将来像は、地域に特化したより詳細なものというイメージである。

(委員)

- ・資料4-2の都市計画の資料について、参加者には読み解くことは難しい。  
→(事務局)資料を再検討する。

(委員)

- ・地域別アンケートのクロス集計の結果が必要である。  
→(事務局)作成する。

以上